



| | |
|------------------|---|
| Title | 「觸媒」の刊行 |
| Author(s) | 小熊, 捍 |
| Citation | 觸媒, 1 |
| Issue Date | 1946-10 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/22373 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | 1_Kankou.pdf |



「觸媒」の刊行

觸媒研究所長

小 熊 捍

化學工業の發展は觸媒の研究成果に負ふところが極めて大きい。それは茲に改めて説くまでもない確定的な事實であるが、如何にして適正なる觸媒を得るかといふ段になると、一切が偶然の發見に俟つかの如き状態を今もなほ脱し得ないのである。この點頗る科學性に缺けたものがあつて、まことに遺憾なことであるといはざるを得ない。

本研究所では、研究の組織的體系を立てて以上の缺陷を補はんとし、先づ純正化學的に接觸反應の理論確立を第一目標となし、次いでその理論の線に添つて觸媒の本質を究め、更に觸媒反應利用の強化と新觸媒の創見に重點を移すといふが如き方針の下に、研究の歩を進めて行く考へである。また一方生物學の立場よりして、生物體内に於ける各種の合成反應が特殊なる生活蛋白質によりて遂行せらるるを見れば、これ等の蛋白質も亦觸媒として考ふべきは當然であらう。かくて觸媒研究は益々この方面に開拓の手を伸すことにより、真にその科學的使命を達成するものと信じて疑はない。従つて本研究所では生物學の分野にも滲透して、深く探究の歩を進めて行きたいと考へてゐる。

本研究所は、昭和十八年一月に勅令を以て北海道帝國大學に附置せられたるもので、爾來僅に二箇年半を經過したに過ぎないと雖も、その間に於ける所員の研究は既に多數の業績と成り、學界に發表せらるるに至つたので、今回それらを發表順に蒐録し、「觸媒」第一輯として刊行した次第である。元より定期刊行物ではないが、業績の集り次第可及的迅速に續刊を出す筈である。

昭和二十年十月一日